

令和5年度

森林教育活動事例集



はじめに

三重県では、平成26年4月から「みえ森と緑の県民税」を導入し、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めており、その取組の一つとして、この税を活用して、平成28年4月から、森林環境教育・木育や森づくり活動の総合窓口となる「みえ森づくりサポートセンター」を設置・運営し、指導者の育成や紹介、活動事例集の発行、出前授業や森林教育のコーディネートなどを通じた森林環境教育・木育の推進に取り組んできました。

こうした中、令和2年10月には、森林や社会を巡る情勢の変化に対応するため、県がこれまで推進してきた森林環境教育・木育を、明確な目的意識の下、より効果的に実施していけるよう、「みえ森林教育ビジョン」を策定し、森林教育の基本的な考え方や目標とする社会、人物像及び進め方を発展的に整理し、森林教育指導者、森林・林業・木材産業関係者、教育関係者、保育関係者等と共有しながら、これらの取組を一体的に進めています。

この「森林教育活動事例集」は県内の学校等で実施された森林教育の活動事例を、ご提供いただいた情報をもとに編集したものです。

実施された活動内容のほか、活動のねらいや時間割等についても掲載していますので、今後森林教育活動を計画、実施する際の参考としてご活用いただければ幸いです。

結びに、本事例集の発行にあたり、活動事例をご提供いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。

令和6年3月 三重県農林水産部

みえ森林教育とは

森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会を作っていくために、子どもから大人まで、三重県で暮らす誰もが、森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人（みえの森びと）に育つことを促す教育活動をいいます。

みえ森林教育の基本的考え方

- ①森林や木材が暮らしや経済に当たり前に取り入れられている社会づくりへ向けた教育
- ②森林に関わる活動やビジネスを志すきっかけとなる教育
- ③自ら考え、判断して行動する力を育む教育

※なお、この事例集に関するお問い合わせや、森林教育活動のご相談は「みえ森づくりサポートセンター」へご連絡ください。



みえ森と緑の県民税



三重県では、災害に強い森林づくりを進めるため、山崩れや洪水などの災害発生のリスクを軽減する取組を進めると同時に、そのような森林づくりを県民全体で支える社会づくりを進めるため、平成26年から「みえ森と緑の県民税」を導入しています。

「みえ森と緑の県民税」を活用して、2つの基本方針に基づき、5つの対策を行っています。

基本方針1 災害に強い森林づくり		基本方針2 県民全体で森林を支える社会づくり		
対策1	対策2	対策3	対策4	対策5
土砂や流木による被害を出さない森林づくり	暮らしに身近な森林づくり	森を育む人づくり	森と人をつなぐ学びの場づくり	地域の身近な水や緑の環境づくり



みえ森と緑の県民税を活用した「みえ森林教育」



将来にわたり「災害に強い森林づくり」を引き継いでいくため、「みえ森と緑の県民税」を活用して、森林教育に携わる人材の育成や、学校等における森林教育の推進、県民の森林への理解を深めるための場の整備など、県民全体で森林を支える社会づくりを進めています。



※ 森のせんせい

三重県では、学校や地域で森林教育を行える方を「森のせんせい」として登録し、学校などに情報提供しています。

情報の一部は、みえ森づくりサポートセンターのホームページでご確認いただけます。

※ 出前授業

これから森林教育を始めようとする学校等や、市町交付金事業の対象とならない学校に、要望に応じてみえ森づくりサポートセンターが森林教育の出前授業を行います。（年間10校程度を選定・実施）

※ただし、過去に出前事業を行った学校は対象外になります。



目 次

1	木を知って、木にふれて、木で作ろう！！ ～三重のいろいろな木を切ってみたよ～ 桑名市立陽和幼稚園	5
2	森林や林業の話 県産材を使おう ～カード立て作り体験～ 桑名市立多度青葉小学校	6
3	森の学習 東員町立城山小学校	7
4	三重の木を知ろう！ ～丸太切り体験とコースター作り～ 四日市市立三重小学校	8
5	身近な森の良さを知ろう ～三重県のスギを使った箸づくりを通して～ 鈴鹿市立庄内小学校	9
6	樹木と友達になろう ～樹木の観察を通して～ 多気町立外城田 <small>ときだ</small> 小学校	10
7	田んぼの水はどこから？ ～森林のはたらきと私たちの暮らし～ 明和町立上御糸 <small>かみみいと</small> 小学校	11
8	大仏山公園 <small>だいぶつやま</small> を探検しよう 伊勢市立進修小学校	12
9	森林や木材について学ぼう 伊勢市立明倫小学校	13
10	宮川ラブリバー公園を探検しよう 伊勢市立豊浜東小学校	14
11	森のおくりもので作品をつくろう！ 伊勢立上野小学校	15
12	クップを体験しよう 伊勢市立小俣 <small>おぼた</small> 小学校	16
13	マイ箸を作ってみよう！ 玉城町立有田 <small>うだ</small> 小学校	17
14	マイスプーンを作ろう ～森林学習を通して～ 伊賀市立大山田小学校	18
15	里山公園を歩いて地元の自然環境・里山の魅力を知ろう 名張市立桔梗が丘南小学校	19
16	木育 ～木を育てる・木で育てる・木とともに育つ矢浜っ子～ 尾鷲市立矢浜 <small>やはま</small> 小学校	20

17	高校生を対象とした森林教育 三重県立四日市農芸高等学校	21
18	いがの木を使った消毒液台制作（上野南小学校への贈り物） ～「みえ森と緑の県民税」を活用した取り組み～ 三重県立伊賀白鳳 ^{はくほう} 高等学校 工芸部	22
19	『森』を知ろう ～マイバタナイフ作り～ 三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園 中学部	23
20	森林ESDから学ぶ私たちの目指す持続可能な社会 ～Think Globally, Act Locally.～ 三重大学教育学部附属中学校	24
21	大木から園庭遊具をつくろう ～身近な環境を通して木の命を知り、活かすことの大切さを学ぶ～ 社会福祉法人いなべ市社会福祉協議会 ^{やまさと} 山郷保育園	25
22	2歳児 森へlet's go ～自然保育につなげるための未満児園庭整備～ 社会福祉法人いなべ市社会福祉協議会 ^{いしぐれ} 石樽保育園	26
23	木育体験教室 ～みて、さわって、つくって～ ^{ふかや} 深谷教育集会所	27
24	森や木に関して理解をし、木にふれ、工作を楽しむ ひまわり学童クラブ	28
25	森のせんせいと一緒に森や木について楽しく学んでキーホルダーを作ろう!! 徳和住民自治協議会	29
26	こどもちゃれんじ教室 伊賀市教育委員会	30
27	わくわく自然探検隊 ～森の木の実編～ 四日市市少年自然の家	31
28	カブトムシが飛び交う森づくり ～産卵場作りと樹液の出る樹木の植林活動～ 松阪市森林公園	32
29	2023年度 お楽し森の学校 伊賀ぴよクエの森（三重県上野森林公園）	33
30	みえ森林教育アドバイザー派遣 三重県林業研究所（社会福祉法人ふらここ保育園）	34
31	ジュニアフォレスター育成講座 ～森の価値を考える～ 三重県林業研究所、三重県立熊野少年自然の家	35

木を知って、木にふれて、木で作ろう！！

～三重のいろいろな木を切ってみたよ～

01

桑名市立陽和幼稚園



木のイメージを絵に描いてみる



それぞれに考えて描いた木が集まることで、林や森になることを感じる



堅い木を親子で協力して切る様子



自分だけのオリジナルコースターづくり。どんな絵を描こうか思案中



友だちやおうちの人と協力して初めての丸太切り体験

実施月	11月
内容	・森や木の話 ・木のおもちゃ遊び ・丸太切り体験とコースターやオブジェ作り
時間	2時間30分（PTA親子行事）
場所	園庭及び保育室、遊戯室
対象	5歳児 14人、4歳児 11人 計 25人、保護者 25人
講師	森のせんせい：才賀美奈氏 森のせんせい：向田恵子氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

ねらい

- ・三重県が自然豊かであることを知る
- ・木にふれたり、体験したする中で、木に親しみを持つたり、身近なものだと感じたりする
- ・木の特質を感じながら、木の作品作りを楽しむ

取組内容

- 【5歳児】・座学…木や森の話を聞く。
・体験…ノコギリを使って丸太切り体験。コースター作り。
- 【4歳児】・体験…「もりぼーる」や「つみ木」であそび、木にふれる。
・体験…ノコギリを使って丸太切り体験。オブジェ作り。

4歳児は、もりぼーるなど木の玩具にふれてあそぶ中で、いろんな感覚で木の心地よさやふれる喜びを感じることができました。

5歳児は、一人ひとりがイメージする木の絵を描き、それが集まると林に、そして森になることを導入で教えてもらい、イメージを膨らませていきました。

そして、両クラスとも親子で丸太切り体験を行い、ノコギリの使い方を学び、木の種類によって堅さや香り、感触の違いを実体験の中で感じ取ることができました。

【園児の反応】 座学では、身近にある自然や木について改めて知る機会となり、その後も葉の形や色に興味を持つ姿が見られました。丸太切り体験では、ノコギリを使うことに初めは苦戦しつつも、木の匂いや硬さの違いを感じ、コースター、オブジェともに楽しむ姿がありました。

【幼稚園のコメント】 子どもたちは夢中になって木を切ったり、サンドペーパーで削って香りを嗅いだり、切った木の形や自然物を活かして思い思いの表現を楽しむことができ、大満足な一日でした。保護者からも普段できない経験ができて良かったと喜びの声をいただきました。今後も保育の中に自然に触れる機会を重ねていきたいです。

森林や林業の話 県産材を使おう

～カード立て作り体験～

02

桑名市立多度青葉小学校



森林の働きや天然林、人工林、森林や林業についての話



年輪の数え方に挑戦



森のせんせいから切るときのコツを伝授



丸太切りに挑戦する様子

ねらい

- ・ 森林の働きや林業について学び、山の恩恵、山あつての私たちの暮らしということを理解し、多度山、ミカン畑のある郷土に愛着を持つ
- ・ 三重県産の木材を使うことでSDGsに対する意識を高める
- ・ 木工体験を通じて、間伐材の利用について考える

取組内容

- ・ 森林の働きや天然林、人工林、森林や林業についての話を聞きました。山の手入れをすることで山だけでなく、周りの環境や海の環境も保たれていることを学びました。
- ・ 樹齢50年を超える輪切りにされた樹木を手に取り、年輪の数え方・同じ林齢でも太さが違うことなどを学びました。
- ・ 三重県産のヒノキとスギの間伐材を用いて、カード立てを作りました。友だちと協力して木を切りながら、細い木でも切るのが大変だと感じたり、サンドペーパーで磨けば磨けばほど、良い香りがしたりするのを感じることができました。

実施月	11月
内容	・ 森林や林業の話 ・ 丸太切り体験とカード立て作り
時間	2時間（総合的な学習の時間）
場所	5年生教室、図工室
対象	5年生 12人、6年生 16人 計 28人
講師	森のせんせい：鈴鹿森林組合 2人
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【児童の反応】

- ・ 広大な森林を管理することは大変だけれど、管理してくれる人がいるから、山崩れが起きないのだなとわかりました。
- ・ 間伐材を使うことは、環境に良いということがわかりました。

【先生のコメント】 生活の身近な場所にある山の役割を知ることができて、より自分たちの地域に好感を持つことができました。また、間伐材の有効利用をすることは、森林にも人にも良いことだと身をもって感じるのことができ、実体験できるこのような機会をさらに続けたいと思いました。

03

森の学習

東員町立城山小学校



ミツマタ植樹



丸太ベンチづくり



森林教室



大ノコギリ引き体験会



森の遊歩道

実施月	12月
内容	・森の学習 ・植樹体験 ・大ノコギリ挽き体験と丸太のベンチ作り
時間	90分（総合的な学習の時間）
場所	「緑の広場（城山小学校裏山の広場）」及び森の遊歩道
対象	5年生 30人
講師	森のせんせい：森林施業認定NPO法人森林の風 10人
備考	「みえ森と緑の県民税」市町交付金を活用した町事業による出前授業

ねらい

- ・植樹体験・丸太のベンチ作り・遊歩道での観察を通して、自然の恵み、樹木の有用性・大切さを実感する
- ・地域の森での活動を通して地域に愛着を持ち、地域を大切に育む

取組内容

【活動内容】

- ①森の小径のそばに、ミツマタ苗木30本を植樹しました。
- ②丸太ベンチのくい打ちを行い、広場にベンチを3基設置しました。
- ③樹木の観察などをしながら、遊歩道を歩きました。
- ④森林教室で次のことを学びました。
 - ・植樹したミツマタは、コウゾと共に、和紙の原料になること
 - ・教科書・ノートなど紙の原料は樹木であること
 - ・森の恵み・森を大切にすること
- ⑤大ノコギリ引きの体験を行いました。

【成果】

- ①グループに分かれ、それぞれの講師に丁寧に教えていただきながら植樹を行い、森に、新たな生命を植樹した喜びを感じることができました。
- ②グループごとに、仲間と声をかけあい、楽しくくい打ちを行うことができました。
- ③各グループの講師に教えてもらいながら遊歩道を歩いたことで、新たな発見が多くあり、森に対する興味関心が深まりました。
- ④和紙と洋紙の違いを学び、樹木を原料としている和紙についてくわしく知ることが出来ました。
- ⑤二人ペアで大ノコギリを使用しました。お互いに応援しあいながら、太い樹木を切ることができました。

【児童の反応】

- ・どの活動も、とても楽しかったです。友達と仲良く活動できました。
- ・先生がいろんなことを教えてくださったので、森について、もっと知りたいという気持ちがわいてきました。

【先生のコメント】

- ・森林の風スタッフのみなさんのきめ細かなご指導ご支援のおかげで、どの子ども森の学習を深めることができました。とても充実した2時間でした。
- ・このような素晴らしい森を持つ城山に愛着を持ち、今後も森を大切に育んでほしいです。

04

三重の木を知ろう！ ～丸太切り体験とコースター作り～

四日市市立三重小学校



森のせんせいの話



ノコギリの使い方の話を真剣に聞く様子



自分たちで木を選んでいるところ



丸太切り体験（みんなで協力しています）



高学年の電熱ペン体験



できあがったコースターやキーホルダー

ねらい

- ・木にふれ、親しむ。木の魅力などに気づき楽しむ
- ・香りや感触を感じる
- ・木について知る、学ぶ、考える
（元々は大きな木であったことを知る）
- ・自分で作るという経験をする

取組内容

〈座学〉

はじめにクイズ形式などで四日市市の森林や木について楽しみながら学び、理解を深めました。森のせんせいの質問に積極的に手を挙げる子どもたちの姿が見られました。

〈体験〉

ノコギリの使い方や安全な丸太の切り方のお話を聞いた後、4人1組のグループに分かれて丸太切り体験をしました。大小さまざまな大きさの木を準備していただいていたので、木を選ぶ時からとても楽しそうでした。その後、自分で切った丸太を使ってコースターやキーホルダーを作りました。高学年が低学年にやさしく声をかける姿や協力して活動する姿が見られました。高学年は電熱ペンで絵を描く体験もしました。

最後に木を切ったり磨いたりした時に出た木の粉はゴミとせず、樹木の生えている地面に返しました。この活動を通して木にふれ、香りや感触を楽しみながら木に親しみをもち楽しく学ぶことができました。

実施月	7月
内容	・森林の話 ・丸太切り体験とコースター作り
時間	2時間（PTA文化教養部主催 夏の特別講座）
場所	図工室
対象	1～6年生 40人
講師	森のせんせい：三重森林インストラクター会 6人
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【児童の反応】「もう一つ作りたい！もっと磨きたい！」との声がたくさんあがりました。ホダ木の木を切った児童は、中にキノコの菌が入っていることを知って、みんなで匂いをかいだり他の木と比べてみたりしました。「キノコの菌が入った木は少し酸っぱいような森のような匂いがする！」と香りの違いにも気づくことができました。

【担当者（PTA）のコメント】夏休み中の子どもたちに楽しい経験をさせていただきありがとうございました。時間が足りないほど充実した時間を過ごすことができました。お手伝いしてくださった先生方、本当にありがとうございました。

身近な森の良さを知ろう

～三重県のスギを使った箸づくりを通して～

05

鈴鹿市立庄内小学校



森の働きについて



木はどこに使われているか



カンナを使ってマイ箸づくり



体験を終えて

ねらい

- ・ 森林には災害防止や地球温暖化対策を防ぐ働きがあることを知る
- ・ 適度な木の伐採が森林に良い影響を与えることを知る
- ・ 木の加工のしやすさを実感する

取組内容

社会科で3学期に学習する「森林とわたしたちの暮らし」の体験学習を行いました。

まず、パネルを活用して「森の働き」と「緑のサイクル」「木はどうやって使われているのか」についての話がありました。森は普段の生活にたくさんかかわっていて、空気を良くするだけでなく、雨水を蓄える働きやその水をきれいにろ過する働き、遠く離れた海の生きものにまでかかわっていることを学びました。他にも実際に丸太を持ってきていただき、丸太のどの部分が家に使われたり、紙になっているのかを知ったことが児童にとっても驚きが大きかったです。

次に、三重県で育ったスギを使った「マイ箸づくり」を体験しました。カンナを使って木を箸の形にしていくなかで、木の香りや木の温かさを感じたりして木製品の良さに気づくことができました。

実施月	12月
内容	・ 森や木の話 ・ マイ箸作り
時間	2時間15分（社会科）
場所	図工室
対象	5年生 8人
講師	森のせんせい：三栄林産株式会社 2人
備考	みえ箸づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【児童の反応】

- ・ 今までずっと森をなくすことが環境破壊につながると思っていたけれど、日本の森の問題として人工林がそのままになってしまっているという問題もあることを初めて知りました。
- ・ 木の香りを今まで意識してかいたことがなかったけれど、自分で箸を作ってみて、木の香りの良さに驚きました。これからは、近くの森でも感じてみたいです。

【先生のコメント】

- ・ 1時間目にはパネルを使った学習で、「森の働き」や「緑のサイクル」について質問を交えながら理解を深めることができました。
- ・ 2時間目のマイ箸作りでは、児童は初めて扱う道具に困惑していましたが、丁寧に教えていただくことで、スギの香る素敵な箸を作ることができました。また、児童だけでなく教師が森について知る良い機会にもなりました。来年度以降はもっと多くの児童に学習の機会を設けられたらなと思いました。

06

樹木と友達になろう ～樹木の観察を通して～

と き だ
多気町立外城田小学校



樹木の見方の話



図鑑で樹木名を調べる



樹名板に記入



コナラの木の同定

ねらい

- ・ 樹木の見方を学ぶ
- ・ 図鑑を使って樹木の種名を同定する
- ・ 校庭の樹木に樹名板をつける

取組内容

校庭の樹木を例に、広葉樹と針葉樹・常緑樹と落葉樹などの見分け方を教わりました。次に、図鑑を使い、葉の特徴や樹皮の特徴から樹種名を調べる活動を行いました。子どもたちは、意欲的に活動し、森のせんせいと一緒に、校庭にある樹木全ての樹種名を調べることができました。活動を通して、図鑑を使って目的の木を調べることができるようになりました。

また、この活動を終えて、樹木に対して、さらに興味を持った子どもたちは、自分のお気に入りの木を見つけて、詳しく観察したり、その変化に気づいたりする意欲が高まりました。

実施月	7月
内容	・ 樹木観察 ・ 樹名板作り
時間	90分（総合的な学習の時間）
場所	校庭
対象	4年生 10人
講師	森のせんせい：宮川森林組合 1人
備考	みえ森づくりサポートセンターによる出前授業

【児童の反応】

- ・ 学校に20種類以上の木があることに驚きました。もっとよく観察して、木に詳しくなりたいです。次は、木が何才なのかを教えてください。
- ・ クリとクヌギは似ているけれど、葉の特徴をよく見たら見分けられることがわかりました。
- ・ 名前が分からなかったら「本で調べてみよう。」と言ってもらって、2つ自分で調べてみたら調べることができました。

【先生のコメント】 意欲的に活動し、実物を見て観察したり、調べたりすることができました。その経験と意欲の高まりが、後の学習（理科・社会科・総合）へつながったと思います。

田んぼの水はどこから？

～森林のはたらきと私たちの暮らし～

07

かみみいと
明和町立上御系小学校



山の土をさわってみる



山の土がいろんな力を持っていることを実感



山の土と畑の土に水を通す実験

ねらい

- ・自分たちの暮らしと、上流の森林とが、どんな関係にあるのかを知る
- ・飯高地域で林業に携わる人の話を聞き、山のはたらきについて学び、森林に興味を持つきっかけにする
- ・稲作の学習で、農家の方から「上御系地区の米がおいしいのは、飯高の森が豊かだから」と言われたことについて、どのような意味なのか理解する
- ・実際に木や葉っぱ等にふれ、香りや感触などで感じる体験をする
- ・木の小物作り等を通して、様々な種類の木があることを知り、木に愛着を持つきっかけにする

取組内容

下流に暮らす自分たちと、上流で暮らす飯高町の方々は川を通してつながっていることを知りました。山の土と畑の土のそれぞれに水を流す実験をし、流れる水の様子や出てくる水の色などを観察しました。山の土は、根や葉のほか、目に見えない生物や生物の糞なども含まれていることが分かりました。山の土を通して出てきた水は、栄養を多く含む水となって川に流れ出て、下流まで運ばれてくること分かりました。森林の安定が私たちの生活の基盤であることが分かり、大変意義のある時間となりました。

また、飯高の木や葉をたくさん持ってきていただき、手触り、匂いなどを確かめました。輪切りにしたヤマザクラ、ケヤキ、クロモジなどに数種類のサンドペーパーをかけ、ひもを通して「木ホルダー」を作りました。

【児童の反応】「飯高町へ温泉に入りについて、山も見て来よう」「山の土って触ったことなかった」「木の香りって好きやな」など、木や森に興味を持った児童がたくさんいました。

【先生のコメント】飯高で林業を営んでいらっしゃる方の声を直接聞くことができ、大変勉強になりました。飯高の山の土を使った実験は、体験的に学習することができ、大変貴重な経験になりました。

実施月	9月
内容	・森林や林業の話 ・森林の土と水の実験 ・木ホルダー作り
時間	2時間（社会科、図画工作）
場所	図工室
対象	5年生 44人
講師	森のせんせい：叶林業合名会社 2人
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業



色見つけをするための説明を受けている様子



マツ林で拾ったマツの葉で松葉相撲をして楽しむ



いろんなドングリを探している様子



見つけたドングリを使って、森の話の聞いたり答えたりしている様子

ねらい

- ・ 森のせんせいと一緒に、様々な自然体験を楽しむ
- ・ 観察し、耳を澄ませ、手触り、匂いなどを感じながら自然の中の動植物とふれあう

取組内容

【色見つけ（三角エリア）】

自然の中にある色を見つけて、自分で考えた色の名前を付けていきました。様々な色を探す中で、木や葉などの細かな部分にも注目することができました。最後には、自分が付けた名前と色を紹介し合いました。

【手触り（森の小路エリア）】

マツのある場所で、マツの葉の手触りの違い、マツボックリの手触り確かめました。松葉相撲も行い、自然遊びを楽しみました。

【ドングリ探し（芝生広場エリア）】

ドングリの木の下で、形や色の違いに注目しながら、様々なドングリを探しました。ドングリの中を確かめ、種子の話をお聴くことで、森や生きもののつながりを知りました。

実施月	10月
内容	樹木などの観察
時間	2時間（生活科の学習時間）
場所	大仏山公園
対象	1年生 29人、2年生 28人 計 57人
講師	森のせんせい：野垣内久見子氏 森のせんせい：藤川和彦氏 森のせんせい：宮本秀明氏
備考	市事業「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」ふれる・つくる・感じる自然体験プログラム

【児童の反応】初めて体験する子どもたちにとって、新鮮で楽しい体験活動になりました。知識として知っていても、体験することで、より深い学びになっていました。

【先生のコメント】本体験活動後に保護者から手紙をもらいました。普段できない貴重な体験活動を実施してもらってありがたいという意見でした。加えて、今後、子どもと一緒に自然に触れ合う活動をしていきたいという意見もありました。保護者に対しても良い啓発になりました。

短い時間の中で内容の濃い活動を多く取り入れていただきありがとうございました。短い時間設定でお願いしたので、このようなことをコメントするのは大変恐縮ですが、子どもたちに一つひとつ、それぞれの体験活動をもっとじっくりさせてあげられるような時間設定でお願いすれば良かったです。

09

森林や木材について学ぼう

伊勢市立明倫小学校



森のせんせいの話を聞く



質疑応答タイム



休憩時間に樹齢100年の年輪を数える



休憩時間に山仕事の道具などにふれる



丸太の話



丸太切り体験

ねらい

- ・ 森の働きや人工林、天然林などの森の特徴、伊勢の森や林業、緑の循環について学ぶ
- ・ 宮川流域産ヒノキの間伐材を使って、丸太切り体験を行い、手ざわりや香りなどを感じながら木工作業を楽しむ

取組内容

初めに、森の働きや天然林、人工林、伊勢の森林や林業についての話を聞きました。木を伐り倒すところや運ぶところなどの動画を視聴し、林業についてくわしく学ぶことができました。

休憩時には、100年を越す樹齢の丸太や、チェーンソー、ヘルメットや山に入る時の靴などを見せていただきました。

最後に、宮川流域産ヒノキの間伐材を用いて、丸太切り体験を行いました。

実施月	1月
内容	・ 森林や林業の話 ・ 丸太切り体験とコースター作り
時間	2時間（社会科）
場所	体育館
対象	5年生 60人
講師	森のせんせい：有限会社 森下林業 2人
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【児童の反応】「意外と難しい」「かたくて、たいへん」と言いながら切り、切り終わると「わあ いいかおり」という声も聞こえてきました。その木材をサンドペーパーで磨き、自分だけのコースターを作りました。

【先生のコメント】 普段何気なく目にしている木や森林の役割、林業について、動画や写真、クイズなどを通して楽しみながら学ぶことができました。

コースター作りでは、がんばって丸太を切ったり、時間をかけて丁寧にみがき上げたりするなど、木にふれあう貴重な体験となりました。

10

宮川ラブリバー公園を探検しよう

伊勢市立豊浜東小学校



どんな音が聞こえてくるか、自然の音を静かに聴いてみる



見つけてきたドングリを見せ合う様子



「モミジの種って羽が生えてるみたい。」



「落ちた木の实から、芽が出るんだね。」「何十年も何百年もかけて大きな木になるよ。」

ねらい

- ・ 森のせんせいと一緒に、様々な自然体験を楽しむ
- ・ 観察し、耳を澄ませ、手触りや匂いを感じながら自然の中の動植物とふれあう

取組内容

最初に、耳を澄ませて、集中して聴覚を働かせることで鳥の鳴き声、風の音などを聴いて感覚を研ぎ澄ませました。その後、3つのエリアを児童たちは体験しました。

【ドングリエリア】

まだ木についているドングリや地面に落ちているとドングリの色や形の違いに着目して観察しました。

【落ち葉エリア】

モミジについている種を見つけ、くるくる回りながら落ちていくプロペラ遊びを行いました。

【木のあかちゃんエリア】

落ち葉の下に隠れている地面に落ちた木の实から芽を出した「木のあかちゃん」を見つけ、観察を行いました。

実施月	10月
内容	・ 自然体験 ・ 環境や森林の話
時間	2時間（生活科の学習時間）
場所	宮川ラブリバー公園
対象	1年生 9人、2年生 6人 計15人
講師	森のせんせい：宮本秀明氏
備考	市事業「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」ふれる・つくる・か感じる自然体験プログラム

【児童の反応】 ドングリや木の实が森にとって、大事な役割をしていることがよく分かりました。

【先生のコメント】 鳥や虫の声、木の葉が揺れる音を聴いたり、木の实を観察したりして、子どもたちが自然を再発見することができました。

森のおくりもので作品をつくろう！

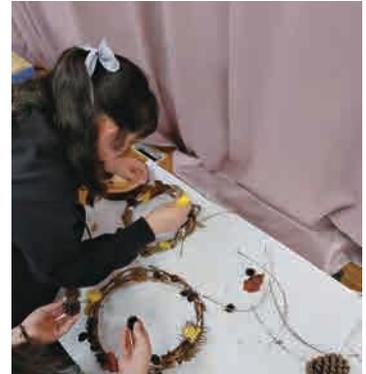
伊勢市立上野小学校



チェーンソーでの丸太切り実演
間近で迫力のある実演を見ている様子



丸太の手触りと香りを確かめて
嬉しそうな様子



個性豊かな作品がたくさんできた制作
過程の様子（リース作り）



クイズを交えての森の働きについての話

実施月	10 月
内容	・森林や林業の話 ・オブジェ作り（1～2年生） ・丸太切り体験とコースター作り（3～4年生） ・リース作り（5～6年生）
時間	各学年 2 時間（生活科の学習時間： 1～2年生、総合学習の時間：3 ～4年生、5～6年生）
場所	校庭、教室、パソコン教室
対象	1～2年生 29 人、3～4年生 24 人、5～6年生 34 人
講師	森のせんせい：福山成宣氏
備考	市事業「豊かな心を育む体験交流活 動推進事業」ふれる・つくる・かん じる自然体験プログラム

ねらい

- ・森林の働きを知り、大切にする気持ちを持つ
- ・木にふれることにより、木に親しみ、作る楽しさを感じる

取組内容

2学年ごとに授業を受けました。最初に校庭でチェーンソーの実演の見学をしました。その後教室で、1、2年生はオブジェ作り、3、4年生はコースター作り、5、6年生はリース作りをしました。

チェーンソーで実際に樹木を切る様子を見て、大きな音がかかることや危険を伴うこともあるため、装備をする必要があること等を理解することができました。切つてすぐの木材と切つてから日が経った木材の手触り・香りの違いを感じることができました。

森や林業の話では、森林の働きについて知ることができました。

作品作りでは、森で集めてきていただいた木の実やツルなど、自然の物をたくさん使って自分だけのオブジェやリース作りを楽しむことができました。3、4年生は丸太をノコギリで切り出し、コースター作りをしました。

【児童の反応】

【1、2年生】木の実などを持参できなかった児童もいましたが、当日、森のせんせいが用意してくれたたくさんの木の実や枝等で、どの児童も十分に材料を手にして自分だけの作品を作ることができ、満足そうでした。身近に見かけない大きなマツボックリなどを手にできて、とても良かったです。

【3、4年生】丸太をノコギリで切るのが思いのほか力が必要で大変な作業でした。慣れるまでは時間が掛かりましたが、森のせんせいやサポートしてくれる方にコツを聞くことで、力の入れ方がわかり、スムーズに切ることができました。

【5、6年生】巻いたツルに集めてもらった木の実や枝を飾り付けて、自分だけの作品を作ることができました。ツルを巻く作業が大変な児童もいましたが、サポートを受けてうまく巻くことができたので、嬉しそうな様子でした。木工用ボンドではすぐには接着しませんが、針金などで固定するサポートをしてもらったことで、思い思いの作品を作ることができました。

【先生のコメント】

- ・チェーンソーでの丸太切りなど、普段できない体験ができて大変良かったです。
- ・お話も、クイズを交えた楽しくわかりやすいお話で、子ども達も楽しく聞くことができました。
- ・電熱ペンでコースターに模様を描く体験ができてよかったです。

12

クッブを体験しよう

伊勢市立おぼた小俣小学校



森林やクッブについての話を聞く様子



クッブのゲームの説明を聞く様子



クッブを体験する様子

ねらい

- ・ 実際の木材にふれ、手触りや香りなどを感じながらスポーツを楽しむ
- ・ 森や森林の話聞き、森林を守る大切さを知る

取組内容

クッブ体験前に、学年に応じて森林や林業に携わる方々の話を聞き、三重県や身近な伊勢市の森林について学びました。
次に、1コート3チームで、3試合ずつゲームを楽しみました。
初めてクッブ体験をした学年では、試合を重ねるごとに上達し、楽しむことができました。
昨年度クッブ体験をした学年でも、久しぶりのクッブ体験を楽しむことができました。
木の重みや手触り、香りをかぐなどを感じながらスポーツを楽しむことができました。

実施月	10月
内容	・ 森林や林業の話 ・ クッブ体験
時間	2時間（総合的な学習時間）
場所	運動場
対象	3年生 113人、4年生 116人、 5年生 99人
講師	森のせんせい：三重県クッブ協会 6人 三重県伊勢農林事務所 職員 2人
備考	市事業「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム

【児童の反応】

- ・ 尾鷲ヒノキの手触りや香りを感じながら、楽しくクッブ体験を行っていました。
- ・ 思ったより木が重くて投げるのに苦労していましたが、繰り返すうちに工夫して投げるようになり、積極的に参加できた児童が多かったです。
- ・ 児童からは、「三重県の木が使われていると知り、身近に感じました。」「木を使って遊んだことがなかったので楽しかったです。」「木がいい匂いでした。」「森林を守っていかないといけないと思いました。」などの感想が聞けました。

【先生のコメント】

- ・ 尾鷲ヒノキを使うことで遊びの体験だけでなく、三重県の森林や林業について親しみを持つことができたと感じました。
- ・ 木の棒を投げるという体験をしたことがない児童がほとんどでしたが、ゲームを楽しんで活動できていました。
- ・ チームで声を掛け合いながらゲームを楽しんでいました。
- ・ 木の香りを嗅いで楽しんでいる児童が多かったです。

13

マイ箸を作ってみよう！

玉城町立^{うだ}有田小学校



森の話



木の匂いに関するクイズ



マイ箸作り



マイ箸作り

ねらい

- ・ 森のはたらきや木の生長する仕組みを知る
- ・ 木にふれて、加工の容易さを知る
- ・ 自分で作る達成感を感じる

取組内容

「森のお話」森林のはたらきと木の生長の仕組みを聞いて、森林の役割や大切さを学びました。

木の円盤の匂いで、どの葉の材かを当てるクイズをして、木の特徴を知りました。

三重県産の木材を小刀で削りサンドペーパーをかけて箸を作り、木材の加工を体験しました。

実施月	9月
内容	・ 森林や林業の話 ・ マイ箸作り
時間	90分
場所	図工室
対象	5年生 27人
講師	森のせんせい：いせしま森林組合 2人
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」 を活用した町事業での出前授業

【児童の反応】 全て楽しかったけれど、特にクイズや箸作りが楽しかったです。

山の大切さなどがわかりました。

【先生のコメント】 木の香りや手ざわりを感じながら箸作りを楽しむことができました。

14

マイスプーンを作ろう ～森林学習を通して～

伊賀市立大山田小学校



森のせんせいの話



森のせんせい話を聴く児童たち



サクラなどの木を使ったマイスプーン作り



スプーンの形は一つ一つ違います

ねらい

- ・ 自然と人間がともに生きていくことの大切さを学ぶ
- ・ 木の匂いや肌触りを感じながら、自然素材の工作をする

取組内容

(座学) 森林の働きと木を使うことの意義
 (体験) 木を使ったマイスプーン作り

前半は、森林の働きについてお話を聴きました。森林には、①水を蓄える、②二酸化炭素を蓄える、③木材を生み出す、④動植物のすみかとなる、⑤土を支えるなどの働きがあり、私たちの生活と切り離せない大切なものであることを教わりました。また、「木」と「樹」の違いについての話では、「樹は生きている自然にある木のことで、木は加工した木材製品にも使われること」を教えてくださいました。芝野さんは、50個のいろんな形のスプーンを子どもたちに見せ、「曲がり方や深さなどが違うのは、デザインや用途を考えて作ったから。同じスプーンでも一つひとつ違う」と話してくれました。

お話の後に「マイスプーン」を作りました。ある程度の形に切ったスプーンを子どもたちは粗い目のサンドペーパーで削って形を整え、細かい目のサンドペーパーで磨きました。つるつるに仕上げたり、曲がっているところを生かしたり、一人ひとりが出来上がりを楽しみにしながら、夢中で磨いていました。

実施月	12月
内容	・ 森や木の話 ・ マイスプーン作り
時間	95分(図画工作)
場所	ランチルーム
対象	6年生 34人
講師	森のせんせい：芝野利夫氏
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した市事業「大山田小学校伊賀の森っこ推進事業」

【児童の反応】

(座学) クイズ形式で話をしてくれることも多かったため、積極的に発言する児童も何人か見られました。
 (体験) 児童たちはとても楽しそうに体験を行っていました。自分が満足するまでつるつるに磨きたい児童も多く、休憩時間を使って仕上げていました。

【先生のコメント】 マイスプーン作りということで、子どもたちはとてもはりきって活動に取り組むことができていたと思います。また、森林の働きはとても大切なものだとして理解することができました。

里山公園を歩いて地元の自然環境・ 里山の魅力を知ろう

15

名張市立桔梗が丘南小学校



散策の説明を受ける児童



チェーンソーの説明を聞く



植物の説明を聞く



各所に設置されたクイズ



里山からの景色を眺める

実施月	11月
内容	・里山公園散策 ・里山の話
時間	3時間（課外活動の時間）
場所	東山ふれあいの森
対象	4～6年生 111人
講師	桔梗が丘自治連合協議会 地域ボランティアスタッフ
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」 を活用した市事業「森林環境教育推進事業」

ねらい

- ・自然環境の大切さと、里山の役割について学習し、その保全の取り組みについて理解を深める

取組内容

名張市にある東山ふれあいの森において、桔梗が丘の小学生を対象に、自然環境等に関するクイズラリーをしながら散策し、自然環境と里山の大切さについて学びました。名張市桔梗が丘地域には3つの小学校があり、毎年順番にこの活動を実施しています。今回は、桔梗が丘南小学校が対象でした。

クイズラリーは全10問用意されており、自然環境に関するクイズや地元の地理に関するクイズなどが出題されました。

散策の途中では、地元協議会によるチェーンソーでの作業を見る機会があり、実際に目の前で切られた木の断面などを観察し合う様子も見られました。また、公園に生えている植物の説明や、木が枯れた原因の説明などが地元の方によって行われ、子どもたちは興味を示している様子でした。

【児童の反応】 小学校の近くにありながらよく知らなかった里山の大切さや自然の豊かさをよく学ぶことができました。また、この大切な里山を守ってくれているボランティアの人がいることを初めて知り、多くの子どもたちから感謝の言葉が子どもたちから聞けました。

【先生のコメント】 桔梗が丘南小学校では他の学年も含めて学年行事で東山ふれあいの森は何度か訪れていますが、このように時間をかけて森の中を歩き学ぶところまではできていませんでした。子どもたちにとって自然を学ぶ素晴らしい機会となりました。

16

木育 ～木を育てる・木で育てる・木とともに育つ矢浜っ子～

尾鷲市立矢浜小学校



地元産材を使った椅子・机の組み立て



間伐材を使ったクリスマスツリー作成



間伐材のトーチ加工



「尾鷲ヒノキ」の間伐体験



森林の役割や間伐・植林の役割を理解する取組



間伐材を用いたイカダ作り

ねらい

- ・ 地元産材「尾鷲ヒノキ」の理解を深める
- ・ 森林の役割の理解を深める
- ・ 尾鷲ヒノキの良さを感じ、木工製作を通して木製品に愛着を持ち大切に作る心を育てる

取組内容

令和5年度年間を通して、全学年で4～5つの学習や体験活動を行いました。①と②については、講師の話聞いた後、わかったことについて児童たちが発表しました。

- ① 「尾鷲ヒノキ」の理解を深める取組（全学年）
- ② 森林の役割や間伐・植林の大切さを防災・自然環境・観光等様々な視点から理解する取組（全学年）
- ③ 地元産材を使った椅子・机を親子で組み立て、尾鷲ヒノキの良さを感じ、愛着を持って利用する取組（全学年）
- ④ 6年生「総合的な学習」において、間伐体験・間伐材を用いたイカダ作り・海での体験・間伐材をトーチに加工、販売する体験などの学習
- ⑤ 間伐材を使った1～5年生によるクリスマスツリー作成

実施月	9月：①～③、⑤、 通年：④
内容	・ 森林や林業と漁業の話 ・ 間伐材利用
時間	①②講義：各2時間、 ③机・椅子組み立て：0.5日、 ④6年生：年間を通して70時間（総合的な学習） ⑤クリスマスツリー作成：3時間
場所	尾鷲市有林みんなの森、矢ノ川、向井地区黒の浜、向井地区、矢浜小学校
対象	1～6年生 46人
講師	尾鷲市教育委員会、尾鷲市水産農林課、森林組合おわせ、松阪飯南森林組合
備考	「みえ森と緑の県民税」市町交付金事業による出前授業、公益社団法人三重県緑化推進協会の森林環境教育支援事業など

【児童の反応】 ヒノキの匂いなどを感じ、椅子・机を大事にしたいという感想や、改めて尾鷲市の自然に目を向け、大切にしていきたいという感想が多くみられました。

【先生のコメント】 指導者である先生方も、学習を児童と共に進めていくことを通して、尾鷲市の魅力や、教材になりうる自然に気づくことができました。また、たくさんの地域のみなさまと出会うことで、学習の幅を広げることができています。

17

高校生を対象とした森林教育

三重県立四日市農芸高等学校



歌川広重の描いた「坂之下」(亀山市関町)の筆捨山を説明



生徒との双方向のやりとり



「高校生林業職場体験」におけるスマート林業機器の取扱説明状況

ねらい

- ・ 森林に関わる活動やビジネスを志すきっかけになること
- ・ 森林・林業の果たす役割や歴史、林業に関わることの魅力を理解する

取組内容

- ・ 四日市農林事務所の林業普及指導員が講師となり、
 1. 森林の働き(森林の持つ公益的機能や多面的機能の説明)
 2. 森林の現状(過去から現在に至る森林・林業を取り巻く環境の変化、三重県の森林資源の説明)
 3. 林業の現状(林業の現場で行われている取組、林業従事者の推移に関する説明)
 4. 林業の新たなテクノロジー(高性能林業機械やスマート林業の取組を説明)
 5. 林業を仕事にする(実際の山林作業だけでなく、公務、森林サービス産業など森林・林業に関わる幅広い仕事の説明)
- ・ 生徒との双方向性のあるコミュニケーションを図るため、随所にクイズを盛り込むとともに、森林解析の技術である「立体視」の実体験を行いました。
- ・ より林業の現場への理解を深めるため、別途実施している高校生林業職場体験研修やドローン撮影した動画の視聴を行いました。

実施月	11月
内容	・ 森林・林業に関する講話 ・ 林業体験
時間	1時間40分
場所	視聴覚教室
対象	環境造園科2年生 37人
講師	三重県四日市農林事務所 職員

【生徒の反応】

- ・ 森林・林業への理解が深まりました。
- ・ 森林・林業が将来身近なものになる可能性が高まりました。

【先生のコメント】 現場をよく知っている方の話は、生徒にとって森林・林業をより近いものとして感じる良いきっかけとなりました。

当校では、これまで林業事業体や林務関係公務員への就職、森林・林業を学ぶ大学への進学希望など、少しずつ取組の成果が表れてきています。

いがの木を使った消毒液台制作（上野南小学校への贈り物）

～「みえ森と緑の県民税」を活用した取り組み～

18

三重県立伊賀^{はくほう}白鳳高等学校 工芸部



記念撮影



消毒液台9台



お披露目会



小学生の絵



消毒液台アップ



搬入

ねらい

- ・ 地元の木材（ヒノキ）の良さを知り、木工の技術を向上させる
- ・ 地域の小学生と協力して取り組むことで、双方の森林教育につなげる
- ・ 主体的に取り組む力を育て、プレゼンテーション能力を高める

取組内容

三重県の高校で唯一、木工を中心としたインテリアから建築まで学べる学科があり、その工場では工芸部は活動しています。

今回、伊賀市上野南部地区の依那古、神戸、比自岐の3つの小学校が統合し上野南小学校として開校することを記念して、アルコール消毒液などを置く木製の消毒液台を9台制作し寄贈しました。

令和4年12月頃から小学生へ作って欲しい物のアンケートを取り、制作する物を決定しました。デザインについては小学校で試作品のプレゼンテーション等しながら小学生の意見を取り入れ制作しました。また、小学生にカンナ削り体験も指導しました。木製台の内側には小学生が書いた絵を取りつけることで、より身近に感じてもらうことが出来ました。

小学校でのお披露目会では、小学生が自ら描いた絵の消毒液台を見てとても喜んでいました。それを見た工芸部の部員達も嬉しそうでした。

実施月	令和4年12月～令和5年6月
内容	・ 木製品開発体験 ・ 小学生へのカンナ体験指導
時間	毎日2～3時間程度（約8か月間、工芸部の部活動の時間）
場所	建築デザイン科棟
対象	工芸部1～3年生 9人
講師	伊賀白鳳高等学校教員
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した伊賀市事業「森のやすらぎ空間整備事業」

【生徒の反応】 僕の母校である神戸小学校が開校し、依那古小学校と合併すると聞き、その記念に何か作らせていただけないかなと思い、今回のプロジェクトを提案させていただきました。また、背板には児童の皆さんに絵を描いてもらい、共に素敵な作品を作る事ができました。お披露目させていただいた際に、皆さんにもすごく喜んでもらい、本当にこのプロジェクトをやらせて頂いて本当に良かったと思います。

【先生のコメント】 工芸部では普段、自分のための作品や家具を制作しています。

今回のプロジェクトでは、使う人のことを考え制作するきっかけになりました。小学生が消毒液を使用する際、適正な高さはどのくらいか？小学生の平均身長から割り出して、使いやすい高さを考え、学年ごとに高さを変えて設計・制作しました。また、コロナ後に消毒液を使用しなくなることを想定し、消毒液を置く凹みに蓋をつけ、段差をなくしPCや黒板消しクリーナーを置けるように工夫しました。

全体を通して、地元の木の美しさを知ること、共同制作の喜び、プレゼンテーションなど、多くの学びがあり、部員たちが大きく成長することができました。

19

『森』を知ろう ～マイバターナイフ作り～

三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園 中学部



森のせんせいから木の名前や特徴を教えてください



森から切ってきて間もない木の皮をむく



紙やすりでバターナイフを磨く



小刀を使ってナイフの形を作る



マイバターナイフの完成



完成したマイバターナイフでパンにバターを塗っておいしく食べる

ねらい

- ・ 森の役割を知る
- ・ 身近な樹の名前と用途を知る
- ・ 木材加工の自由度を体感する

取組内容

はじめに、森のせんせいから森の役割についてお話を聞きました。森は動物のすみかであることや森の保水力についてなどスライドを見て学習しました。そのあと、実際に丸太や木の板を見たり、香りをかいだりして、それぞれの樹には名前があること、木の性質により加工されるものが違うことなどを学びました。

次に、バターナイフ作りに取り組みました。生徒が自分の気に入った材質や形を選び、サンドペーパーで磨いていきました。何度も何度も手で滑らかさを確かめたり、出来上がりの形を考えたりしながら仕上げ、自分だけのバターナイフを完成させることができました。最後に出来上がったナイフを使って、パンにバターを塗って食べました。

【生徒の反応】

- ・ 木の種類によって、触った感じや色などが違うことがわかりました。
- ・ 出来上がったバターナイフを並べてみると、みんな違う形や色で自分だけのものが作れてよかったです。

【先生のコメント】 森や木をより身近に感じとったようでした。生徒たちは、昨年のマイスプーン作りに引き続き実施でき、自分で作る楽しさを体験することができました。

実施月	6月
内容	・ 森や木の話 ・ マイバターナイフ作り
時間	2時間20分（生活単元学習の時間）
場所	中学部棟 304教室
対象	中学部 3年生 10人
講師	森のせんせい：芝野利夫氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

森林ESDから学ぶ私たちの目指す持続可能な社会

～Think Globally, Act Locally.～

20

三重大学教育学部附属中学校



手入れされた森とされていない森について



間伐について学ぶ



森の中に入っていく様子学ぶ



森のせんせいによる講義

ねらい

- ・SDGs No.15「陸の豊かさを守ろう」に基づき、大紀町の林業についての知識を深める。
- ・主体的に探究学習に取り組む姿勢・意欲を養う
- ・体験学習を通して、私たちの生活と林業との密接な関わりを知り、自分たちの身近なところから行動していく姿勢を育てる

取組内容

三重大学教育学部附属中学校では、総合的な学習の時間(STEP～Save The Earth Projects～)の一環としてSDGsについて学んでいます。気候変動による様々な問題を自分たちの視点で発見し、解決するための活動を広めています。

森のせんせいの所有する森林を訪れ、木々の成長の様子や森の管理、森に生息する動植物について学びました。グループワークではホオノキの葉や津の鰻に関連のあるサンショウの葉を探す活動も体験しました。フィールドワーク後の講義では、世界規模で森林が減っていることや、建物を建てる際に使用される多くの木材の流通や林業にかかわる仕事の内容を知るとともに三重や日本の自然をどのように維持していくかを学ぶことができました。

実施月	12月
内容	・森林や林業の話 ・林業地でのフィールドワーク
時間	2時間30分(総合的な学習の時間)、 1時間30分(森林のフィールドワーク)、 1時間(森林と林業の講話)
場所	吉田本家山林部の森林、株式会社ひのき家2F研修室
対象	1年生 37人
講師	森のせんせい：吉田正木氏

【生徒の反応】 三重県各地から通う附属中の生徒にとって実際に森の中に入り自然に触れる機会を持つことは貴重な体験になりました。ワークショップでは理科で学習した内容を話す生徒もいたり、見慣れない植物に興味を持って触ったりする生徒がいました。今回の学習を通して、総合学習で学んできたSDGsがより軽視できない問題であることも再確認できました。

世界規模での森林伐採が進む中、日本や三重県の森林を守っていくために問題点を自分事として捉え各個人で考えてまとめたことを今後、海の学習に行った生徒たちと共有し、全体で内容を把握して報告していきます。

【先生のコメント】 自然を保護しながら三重県の林業を支える吉田さんからワークショップと講義をしていただきました。林業とはただ単に木を育てて伐採するというだけでなく、地元の産業を支え、人と動物の共存を考えながら過去から守られてきた大切な自然を保護し、私たちの生活により身近に関わっていることも学ぶことができました。今回の学習を通して“誰一人取り残さない”社会の実現に向けて、自ら考え行動できるような探究学習を進めていきたいです。

大木から園庭遊具をつくろう

～身近な環境を通して木の命を知り、活かすことの大切さを学ぶ～

21

社会福祉法人いなべ市社会福祉協議会 やまさと 山郷保育園



命をいただくことに感謝し、作業の無事終了をみんなでおいのりする様子



約1tの木の半分をみんなで力を合わせて園庭に運ぶ様子



乳児が楽しく安全に遊ぶには、どの向きに切ると良いか話し合い



講師にチェーンソーで切ってもらったところ



小さい子も早速、遊んでくれている様子



ヘラや木の枝で作った道具を使って協力しながら夢中で皮むき

ねらい

- ・ 日頃からあそび場として活用している野外フィールドへ光を入れる
- ・ 周囲の環境に好奇心を持ち、生活に取り入れていこうとする力を養う
- ・ 目的意識を持って、自分自身の力を発揮し、協力する大切さや楽しさを知る
- ・ 伐採後の大木の感触や質感を通して、感覚を豊かにする

取組内容

フィールド内に明るさ、風通しが必要なため、ある一本の大木(タブノキ)を切り出すことになりました。長年生きてきた大木の命を有効利用できることに気づき、園児と職員が知恵を出し合い『未満児園庭に大木の遊具として使おう!』ということになりました。大木の命をいただく前に講師は、その意味と覚悟を伝え、大木を清め、いのりや誓いの儀式を行ないました。切り株から、瑞々しい触感と香りが漂い、約45年間生きてきた木を誇らしく感じました。細い丸太を並べた上に約300kgの大木を乗せ、ロープをかけて、参加した園児と職員全員が力を合わせ、『オーエスオーエス』の掛け声と共に夢中になって園庭まで運びだすと、約1時間経過していました。講師が大木を縦半分にし、園児は、カナヅチやヘラ、など道具を使い、木の皮を全てむくと、テーブルや椅子へと姿を変えました。翌日からは、大木を活かした愛着のわく遊具で未満児の子がまたがったり、渡ったりする活発な遊びが始まりました。その近くでは、5歳児の「どう?いいやろ?がんばってつくったんやに!」という誇らしげな顔を見ることができました。

実施月	12月
内容	・ フィールド整備 ・ 園庭遊具作り
時間	6時間(5歳児の主活動時間)
場所	園庭向いの雑木林のフィールド、園庭
対象	5歳児33人、保育士6人 計39人
講師	いなべ市集落支援員 田端昇氏
備考	主体性を育む保育及び日常的に取り組む保育の一環として実施 みえ森づくりサポートセンターから幼児用ヘルメットを借用

【園児の反応】 目的がはっきりしていたため、やるべきことに全力で取り組む姿がみられました。大木が生きているということを知りました。

【保育園のコメント】 いろいろな感覚をフル回転できた活動でした。中でも木の肌の感触や大木が倒れ込むときの音と重さに驚きと感動がもたらされました。

2 歳児 森へlet's go

～自然保育につなげるための未満児園庭整備～

社会福祉法人いなべ市社会福祉協議会 いしぐれ 石榑保育園



大木は自然の平均台（左）長い枝を何とか取ろうとする姿（右）

森を探索する姿

採集大好き。「リュウノヒゲの実はピカピカでかっこいい」（写真左下）



乳児園庭整備。クローバー等の植物が根付き始めている様子

溝の土留めにもフユイチゴやセンリョウ等が根付き始めている様子

ねらい

- ・ 移り行く季節を感じながら、身近な場所を保育者や友だちと一緒に探索する
- ・ 園庭の中でも自然な環境で遊ぶ

取組内容

日頃から大変恵まれた環境の中で、園児たちは大きな鈴鹿山脈を見ながら地域へと出かけたり、園の近くにある森で過ごしたりと季節の移り変わりを五感で感じ取っています。

今回は、秋から冬へと季節が変わる森を、子どもたちが探索しました。担任からお約束の話を森の中で聞いた後、目を輝かせながら思い思いの場所を見つける姿が見られました。

また、集落支援員の才賀さんと共に子どもたちの一つひとつの発見や、声を拾いながら関わり、子どもたちが発信したことを否定せずに受け止め共感する事で子どもたちは積極的に活動することができました。

また、未満児園庭は草花がなかなか育たない環境があり、未満児園庭でも虫取りをしたり、季節の草花を摘んだりできる環境にしたいという担任の思いから、今年度、田端さんに整備をお願いしました。蚊が多くて困っていた溝は、溝さらえをして水が溜まりにくいようにし、砂や土が側溝に流れないように、枝葉や石など自然の物を使って土留めをしてもらい、クローバーやフユイチゴ等の植物を植えて、緑化も同時に行いました。

整備された場所は少しずつ、砂地が息を吹き返し生命が宿る素敵な場所になってきています。

【園児の反応】 森に入った瞬間、足元がふかふかして何かがいると感じる子、視線を低くし虫さがし、棒を見つけて遊ぶ姿、木の実、草の実を採集する姿、今まで経験した事と森の中の現状の物をつないでお話をする子などそれぞれが森を満喫していました。

【保育園のコメント】 何もなかった園庭に草花が芽生え虫が集まるようになり、子どもたちが夢中になって遊べる魅力的な環境となりました。大人だと見過ごしそうな物でも、子どもたちは立ち止まって発見し、喜ぶ姿が見られるようになりました。特に、砂場ハウスに植えられた草花を見つけた子どもたちは、見るだけでなく摘んで遊ぶことで、より遊びの幅が広がりました。このように園庭内でも身近な自然に触れることで、園外のフィールドに出ても自然の面白さに気付ける子に成長して行ってほしいなと願っています。

実施月	通年（自然保育、園庭整備）
内容	・ 森林探索 ・ 未満児園庭整備
時間	午前中の 1 時間 45 分（2 歳児の主活動時間）
場所	保育園近隣の森、 保育園乳児園庭
対象	2 歳児 15 人
講師	いなべ市集落支援員：才賀美奈氏、 田端昇氏

23

木育体験教室 ～みて、さわって、つくって～

ふかや
深谷教育集会所



自分たちが住んでる地域のクイズもあったよ！



みんなでメダル作りに挑戦！どんなメダルを作ろう？



みんなでクイズに挑戦！何問わかるかな？

実施月	8月
内容	・森林の話 ・木のおもちゃ体験 ・丸太切り体験とメダル作り
時間	14:00～16:00の2時間
場所	深谷教育集会所
対象	1～6年生 24人
講師	森のせんせい：林業女子会@みえ 1人 森のせんせい：館俊樹氏 森のせんせい：山根由士氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

ねらい

- ・森林の役割について知り、木は私たちの生活の中のどんなところに使われているかを知る
- ・木について学んだり、ふれたり、体験したりする中で、木に親しみを持ったり、身近なものと感じられるようにする

取組内容

- ・森林に関するクイズをしました。子どもたちはクイズに参加することで、森林に関する知識を楽しみながら深めることができました。また、自分たちが住んでいる地域で行われている太鼓作りに使われる木材についてもクイズでふれていただいたことで、地域への興味関心も深めることができました。
- ・木材を用いたメダル作りをしました。自分たちでノコギリを使って木材を切ったり、サンドペーパーで磨きあげたりすることなどを通して、木に慣れ親しむ経験をすることができました。また、木材を切る際に助け合ったり、思い思いの形で作り上げたメダルを鑑賞し合ったりと、児童同士の交流を深めることができました。
- ・木材で作られたおもちゃで遊ぶことで、木のあたたかみや香りを感じながら、楽しんで遊ぶことができました。

【児童の反応】

- ・「木を切るのが大変でした。心配していたけどできてよかったです。かざりつけをするのはむずかしかったけど、楽しかったです。またやりたいです。」
- ・「木の年のかぞえかたがわかりました。木にはいろんなしゅるいがあるんだなっておもいました。」
- ・「メダルやキーホルダーをつくるのがたのしかったです。もう1つ作りたくなりました。クイズもたのしかったです。木がなんさいかわかるのはしらなかったです。」

【先生のコメント】 どの活動でも、楽しんで学ぶ姿が見られました。また、活動をすることで、自然と児童たち同士で交流をする姿が生まれたのが良かったです。ねらいでもあった「森林に対する興味関心」は深まったと感じました。

24

森や木に関して理解をし、木にふれ、 工作を楽しむ

ひまわり学童クラブ



クイズ形式で森林や木について学ぶ



一番人気だった「もりぼーる」であそぶ



木のおもちゃあそび。たくさんのおもちゃの中から好きなものを選んで遊ぶ



一人ひとり丸太切りを体験



自然の物を使ってのオブジェづくり



できあがった各自思い思いの作品

ねらい

- ・ 森や木の役割、大切さを知る
- ・ 木のおもちゃにふれて遊ぶことを楽しむ
- ・ 木の工作を楽しむ

取組内容

児童たちは最初に全員で森林の働きや木を使うことの意義、桑名地域の森林についてクイズ形式で学び、理解を深めました。

その後、3班に分かれ、代わる代わる3つの体験をしました。

- ① いろいろな木のおもちゃにふれ、木の匂いや感触を味わい楽しみました。
- ② ノコギリで丸太を切る体験をしました。
- ③ 丸太切りでできた輪切を材料にしてコースターやオブジェ作りを楽しみました。

実施月	8月
内容	・ 森林や林業の話 ・ 丸太切り体験と作品作り ・ 木のおもちゃあそび
時間	2時間（学童の活動）
場所	ひまわり学童クラブ（保育室、戸外通路）
対象	小学1～6年生 25人
講師	森のせんせい：館俊樹氏 森のせんせい：向田恵子氏 森のせんせい：山根由士氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【児童の反応】 初めて見るたくさんの木のおもちゃに興味深々の子どもたちは、次々とあらゆる種類のおもちゃで遊び、大興奮でした。

「もりぼーる」が出されると、子どもたちの目が輝き、触ってみたり寝転んでみたり、木の匂いや感触を楽しんでいました。

丸太切り体験では、丸太を抑えながら、友達がノコギリを使っているのを見て、自分の番になるのをワクワクドキドキしながら待っていました。順番が回ってくると、思うように扱えないノコギリに悪戦苦闘しながら、切り取った瞬間の達成感を味わっていました。

【先生のコメント】 森のせんせいの丁寧な言葉がけで、子どもたちは挑戦してみたり工夫したり、伸び伸びと色々な体験に取り組むことができました。木の匂いや感触を確かめたり、丸太切り体験など貴重な体験ができました。

世界に一つしかない素敵なオブジェに感動しました。

25

森のせんせいと一緒に森や木について楽しく 学んでキーホルダーを作ろう！！

徳和住民自治協議会



森のせんせいのお話&クイズ



オリジナルキーホルダー作りの説明を聞く



ノコギリを使って輪切り体験磨く



紐通しの穴をキリで開け、サンドペーパーで磨く



キーホルダーに電熱ペンで絵や文字を書く

ねらい

- ・自然の大切さやすばらしさを、ふれあいや体験・学びをとおして実感する

取組内容

はじめに、座学を行いました。対象が1年生～5年生と広がったのですが、森のせんせいが楽しく分かりやすく、森のお話やクイズをしてくれました。森の役割や大切さを学ぶことができました。

次に、三重の木をノコギリで切る体験をし、オリジナルのキーホルダーを作りました。慣れないノコギリの扱いに苦戦しながらも、真剣に取り組み、木の香り、木の温もりを感じながら、オリジナルのキーホルダーを制作しました。

実施月	8月
内容	・森林や林業の話 ・丸太切り体験とキーホルダー作り
時間	2時間（工作、理科）
場所	徳和地区コミュニティセンター（大会議室・小会議室・和室）
対象	小学1～5年生 13人
講師	森のせんせい：森林環境教育機構 2人
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【児童の反応】 森のせんせいのお話をみんな一生懸命聞き、クイズにも楽しそうに答えていました。

キーホルダー作りもみんなできあがり作っていました。

「楽しかった。」と、自分が作ったキーホルダーを見せ合いながら話をしていました。

【職員のコメント】 子どもたちの笑顔がたくさん見ることができました。

多学年との交流もできてよかったです。森や木についてより身近に感じてもらえる機会になりました。

26

こどもちゃれんじ教室

伊賀市教育委員会



採取した葉から樹木の名前を当てる



カップ体験（競技中）



カップ体験（記念写真撮影）



森林の役割について学ぶ

ねらい

- ・ 森林を身近に感じ、森林の重要性を理解する
- ・ 葉の形を観察し、樹木の見分け方を学ぶ
- ・ 木材を使用したゲームを行い、木材に親しみを覚える

取組内容

初めに、「遊々の森」(※1)に生育する樹木の名前当てゲームを行いました。生育している樹木から葉を採取し、樹木をイラストで紹介した看板から同じ形の葉を探して、樹木の名前を調べてもらいました。参加者は葉を細かく観察し、樹木の種類ごとに違う葉の特徴を楽しく学ぶことができました。

次に、スウェーデン発祥の薪投げゲーム「カップ」を体験してもらいました。「カップ」とは2チームに分かれて、カストピンナ(木棒)を投げ合い、相手コートのカップ(木片)を倒すというゲームです。最初はカップをうまく倒せない様子でしたが、後半になるとコツをつかんだようで、カップを倒せたときはチーム全員が喜んでいました。ゲームを通して木材にふれ、木に親しみを持ってくれました。

最後に、「うんこドリル 森と暮らし」(※2)の「森林の木を切ったらどうする?」という問題を考えてもらい、この問題を通して、森林の働きや木材の利用について学んでもらいました。

実施月	10月
内容	・ 森林の話 ・ 樹木観察 ・ カップ体験
時間	2時間
場所	三重県伊賀市焼尾国有林 遊々の森 「いきいき学びの森」
対象	伊賀市内の小学生7人、 保護者4人、計11人
講師	三重森林管理署
備考	伊賀市教育委員会事業「こどもちゃれんじ教室」 ※1：森林教室や自然観察、体験林業等のフィールドとして使用する協定を結んだ国有林。 ※2：林野庁×うんこドリル「うんこドリル 森と暮らし」(林野庁HP) https://www.rinya.maff.go.jp/j/kouhou/kouhousitu/unkodrill/moritokurashi.html

【児童の反応】 楽しかった。学校でもカップをやりたいです。

家でも森林について勉強したいと思いました。

【先生のコメント】 ゲームを体験している児童は非常に楽しそうな様子で、森林を身近に感じ、その大切さも理解してもらえたと思います。

四日市市少年自然の家



ドングリクッキー作り



ドングリクッキー作り



ドングリの話



ドングリ拾い

ねらい

- ・ 森の中での体験を通して自然に興味を持つ
- ・ 集団での活動を通して、友達との絆を深める

取組内容

児童たちは、探検隊名前を決め、木のバッジを作成しました。アイスブレイク後、講師からドングリの話聞き、ふれあいの森へドングリ調査に出かけました。ドングリ調査ノートを準備し、ふれあいの森にたくさんあるドングリの種類が何か調査したり、ドングリ虫探しを行いました。拾ったドングリとドングリ虫（ゾウムシなどの幼虫）を観察し、生食可能なドングリの試食、ドングリごま作りとドングリクッキー作りを行いました。

実施月	11月
内容	・ 自然探検 ・ ドングリクッキー作り
時間	5時間30分
場所	四日市市少年自然の家（研究室及び周辺の森林）
対象	小学3年生4人、4年生5人、5年生4人 計13人
講師	川村龍也氏

【児童の反応】「もじゃもじゃ帽子、おしゃれ帽子、しましま帽子、うろこ帽子のドングリがあることがわかりました」「ドングリから虫が出てきてびっくりしました」「ドングリを食べたら味がなくて、クルミの食感がしました」などの意見があり、活動を楽しんでもらえたようでした。

【先生のコメント】初めは、ドングリを食べることに抵抗があった子もいましたが、最終的には全員に食べてもらえて、楽しそうな様子だったので安心しました。子どもたちの反応もよく、ドングリについてより興味をもってもらえたのではないかと感じました。

カブトムシが飛び交う森づくり

～産卵場作りと樹液の出る樹木の植林活動～

松阪市森林公園



ホダ木を組んで産卵所を作っている様子



ボランティアの皆さんで添え木を設置



カラス等の被害対策としてのネット張り



樹木医である森のせんせいの指導を受けての植樹活動の様子



産卵所の幼虫の様子



添え木、鹿よけネットの設置

ねらい

- ・カブトムシをテーマにして樹木の多様性について考える
- ・原木椎茸がクヌギ等の広葉樹で育てられていることを知る
- ・森林の役割について知る

取組内容

今回は子どもたちに人気のカブトムシをテーマにして、樹液が出て実のなる広葉樹にスポットを当てて取り組みました。

①7月

まずは夏にカブトムシが集まる産卵場作りに取り組みました。森のせんせいに、原木椎茸を育て終わったホダ木を用意していただき、参加者の皆さんとカブトムシが産卵しやすい環境作りに取り組みました。

②12月

地域で植樹のボランティア活動をされている松愛会(パナソニックOB会)の皆さんと一般参加の方にお手伝いいただき、樹液が出てドングリの木として、そして原本シイタケ栽培にも活用されているクヌギの木を6本、産卵場近くに植樹しました。害獣対策として鹿よけネットも取り付けました。

実施月	① 7月、② 12月
内容	・カブトムシの産卵場作り ・植樹活動
時間	2日間
場所	園内
対象	子ども～大人：① 10人、② 24人
講師	①森のせんせい：青木茂氏 ②森のせんせい：末良学氏
備考	園内にある自動販売機の売上を「自然観察活動基金」として活用

【児童の反応】 山には、木材として活用できるヒノキやスギ等の針葉樹、サクラなどの花や紅葉を楽しむ樹木、そしてドングリの実や樹液が出る広葉樹等があることを学んでもらえたようでした。

【担当者のコメント】 多様性が重んじられる時代になり、この針葉樹や広葉樹、常緑樹等様々な樹木を育てる活動を通じて、健康で豊かな森づくりへの啓蒙活動に繋がっていきたいです。

2023年度 お楽し森の学校

伊賀びよクエの森（三重県上野森林公園）



竹を割って基地の材料をついている様子



やりたいことの計画を立てている様子



自分たちで作ったツリーデッキで弁当を食べる



秘密防衛基地を作る



1人で作る班の子どもが作成したすべり台



最終日、記念撮影

ねらい

- ・自分の考えた“楽しいこと”を森の中で見つけて実現する
- ・継続的な活動から自分たちの多様性を認め合い、自由な発想を形として実現する
- ・子どもたちの生きる力や主体性を育む

取組内容

お楽し森は子どもたち一人ひとりが森の中で自分が本当に「楽しい!」と思うことを見つけ、それを実現するために何度も挑戦することのできる場です。ねらいに基づき、全5日間のプログラムを開催しました。

1日目はお楽し森がどんなところか知るために森の中を探検し、スタッフが考えた”楽しいこと”を体験しました。

2日目は自分の”楽しいこと”を実現するために必要な技を習得しました。

3～5日目は子どもたちが自らの力で、自分たちの考えた”楽しいこと”を実現しました。「ツリーデッキ」「秘密防衛基地」「ひとりで作る班」の3グループに分かれ、自分たちの夢を形にしていきました。

一人ひとりが主人公であるこのプログラムでは落ちこぼれは存在しません。どの子どもも自分が本当に何をしたいのかを考え、その実現に向けて楽しみながら一日中、集中して活動していました。

また、大人はつつい手を貸してしまいそうになりますが、子どもの力を信じて待つことで、子どもは伸び伸びと自分の力で育っていく様子を見ることができ、大人自身も学びが多い活動となりました。

今回で3年目となり、半数以上の子どもたちがリピーターでした。そのため経験のある子が初めての子に技を教えるシーンも多く見られました。ほんの5日間のプログラムですが、子どもたちにとって自分の秘めたる力に気づくことのできる、かけがえのない経験になったと思います。

【児童の反応】 どの子どもも自分がこれまで体験したことよりすごいと思える目標を見つけて楽しみながら挑戦していく様子が見られました。

大人から指示されることなく、子どもたちが自分の夢実現に向かって主体的に森で活動していく頼もしい姿が見られました。

【保護者のコメント】 大人からの指示を待つプログラムではなく、子どもが主体的に動いていること、大人はサポートに徹していることが素晴らしいなと思いました。

生き生きとしている。先生方が暖かく息子を見守ってくださるので、息子自身が自分らしく安心して過ごせていると思いました。

それぞれの子が自分のやりたいことをやりたいように出来ている様子がわかりました。屋外でそういう機会がなかなかないので良いと思いました。

実施月	7月～11月
内容	森での主体的活動
時間	各回6時間30分
場所	ビジターコテージ周辺
対象	小学3年生 2人、4年生 1人、 5年生 5人、6年生 4人 計12人
講師	三重県上野森林公園職員
備考	三重県上野森林公園主催事業

みえ森林教育アドバイザー派遣

三重県林業研究所（社会福祉法人ふらここ保育園）



1回目：山あそびの様子



1回目：山あそびの様子



2回目：腐った木の中の、虫の卵や幼虫を観察している様子



2回目：保育士とアドバイザーによるふりかえりの様子

ねらい

- ・ 保育士が、森林を活用した保育を展開していくための手法を学ぶ
- ・ 森林を活用した保育を実践する

取組内容

【1回目 10月】

（活動） 4歳児及び5歳児9名を対象に森に入って、山あそびを実施しました。

（ふりかえり） アドバイザーから、森林を活用した保育活動を展開するうえで、目的を持たずことの重要性や、森を大切にすることを養う手法、安全管理について指導を受けました。

【2回目 12月】

（活動） 2～5歳児11名を対象に、目的をもった活動として、たき火を取り入れた活動を展開しました。

（ふりかえり） アドバイザーから、年齢特性を生かした保育活動や、森あそびの特性、今後の展開について指導を受けました。

実施月	令和5年10月及び12月 計2日間
内容	保育園への専門家の派遣
時間	2日間（別に、事前打合せあり）
場所	保育園周辺の森
対象	2歳～5歳児（延べ20人）
講師	森林教育アドバイザー：嘉成永慈氏 （保育所型認定こども園 森の風こども園 副園長）
備考	「みえ森と緑の県民税」を活用した 県主催講座

【児童の反応】

- ・ はじめは、森の中を歩くのがおぼつかなかった子ども、慣れてくると上手に歩けるようになっていきました。
- ・ 子どもたちから、幼虫の安全な「家」を作ろうという声があがり、自主的に枯れ木や葉っぱを集めるなどの行動をおこしていました。
- ・ 腐った木の中の虫の卵や、幼虫を興味深く観察する様子が見られました。

【講師のコメント】

- ・ アドバイザーの先生に来ていただいたことで、色々な発見があり、子どもたちとの関わり方や言葉かけの仕方などたくさん学ばせてもらいました。
- ・ 日常の保育の中に山あそびを取り入れ、子どもたちのしたいあそびを存分に楽しめるよう見守り、環境を整えていきたいです。

31

ジュニアフォレスター育成講座

～森の価値を考える～

三重県林業研究所、三重県立熊野少年自然の家



1日目：伐倒体験の様子



2日目：自然観察の様子

ねらい

- ・ 東紀州・三重・日本・世界の森林と林業を知る
- ・ 立木が木材として利用されるまでの流れを知る
- ・ 立木を伐倒し、造材・加工・活用する体験をする
- ・ 森の価値を考える
- ・ 森の価値を高めるためにできることを考える

取組内容

- 【1日目】
- ・ 三重の森林・林業の姿を知る（クイズ形式による座学）
 - ・ 製材所の仕事を知る（セーザイゲームによる木取りの体験）
 - ・ 立木の計測と伐倒体験（立木の大きさを予測し、手鋸で伐倒後実測）
 - ・ クリスマスリース作り（伐倒したヒノキの葉を利用）
- 【2日目】
- ・ 身近な樹木などの特徴を知る（樹木医による自然観察）
 - ・ みえ森林ワークブック体験（立木の二酸化炭素の固定量を算出）
 - ・ 薪割り・焚き付け体験（鉋を使った薪割りと、マッチによる焚き付け）
 - ・ ワークショップ（伐倒した木の有効活用法を考える）
- 【3日目】
- ・ 弓矢づくり（小刀、手鋸を使った竹材の加工）
 - ・ 焚き付け体験・野外炊事（木材を燃料として利用する）
 - ・ セーザイゲーム（製材所の仕事を、ゲームで体験する）
 - ・ ワークショップ（製材所が生き残るための方策を考える）
 - ・ キャンプファイヤー（木材を明かりとして利用）
 - ※ 荒天のためキャンドルサービスに変更
- 【4日目】
- ・ 椅子づくり（木を木材として利用し道具を作る）
 - ・ ワークショップ（森の価値と、その価値を高める方策を考える）



3日目：焚き付けの様子



3日目：セーザイゲームの様子



4日目：椅子づくりの様子



4日目：ワークショップの様子

【児童の反応】

- ・ 森には生物の豊かな営みがあって、その営みが人にとってもなくてはならない重要なものということがわかりました。
- ・ 将来、熊野の製材所から木材を買って、木の家を建てたいです。
- ・ 森の大切さをたくさんの人に伝えなければならないと思いました。
- ・ 日本で木が売れないなら、外国で売ればいいと思いました。

【講師のコメント】

- ・ セーザイゲームで木取りの重要性を学ぶことで、節や木目の出方に興味が持てたようで、椅子作り際には、真剣に自分が使う木材を選んでいました。
- ・ 4日間のプログラムを通じて、子どもたちの関係性が深まり、最後のワークショップでは、森の価値について活発な議論ができました。

実施月	令和 5 年 12 月～令和 6 年 1 月
内 容	・ 森林・木・林業に関する講話 ・ セーザイゲーム ・ 林業体験 ・ 木工体験 ・ ワークショップ
時 間	4 日間
場 所	三重県立熊野少年自然の家
対 象	小学 4 年生～ 6 年生 12 人
講 師	三重県立熊野少年自然の家 4 人 熊野林星会 3 人 樹木医 1 人 三重くまの森林組合 3 人 森林をフィールドに子どもの「生きる力」を育む指導者養成講座受講生 10 人 三重県林業研究所職員 5 人
備 考	みえ森と緑の県民税を活用した県主催講座

みえ森林教育ビジョン（概要版）

- ・森林と社会を巡る情勢の変化に対応した森林環境教育・木育を推進するため、ビジョンを策定
- ・みえ森林教育の基本的考え方、目標とする社会と人物像、取組の進め方を規定

ビジョン策定の動機（森林・社会を巡る情勢変化）

森林と社会の持続可能性を追求する上で、森林と私たちの関係を見つめ直すことが不可欠

充実する森林を木材のみならず、さまざまな産業を展開する空間として活用し、森林を整備・更新することが必要

みえ森林教育の基本的考え方（今後の森林教育の果たす役割）

森林や木材が暮らしや経済に当たり前に取り入れられている社会づくりへ向けた教育

森林に関わる活動やビジネスを志すきっかけとなる教育

自ら考え、判断して行動する力を育む森林教育

取組の進め方

森林教育の裾野の拡大

- 森林教育に気軽にアクセスできる場や機会の拡大
- 保育や教育への森林教育の更なる普及
- 大人や企業を対象とした森林教育の拡充

子どもから大人まで一貫した教育体系の構築

- 新たなみえ森林・林業アカデミーにおける森林教育と林業人材育成の統一的視点の下での推進
- 林業・木材産業に従事する方との連携強化

主体的・対話的で深い学びの充実

- 主体的・対話的な学びを取り入れた教育手法の普及
- 森林をフィールドとした体験活動の機会の拡大

指導者の養成

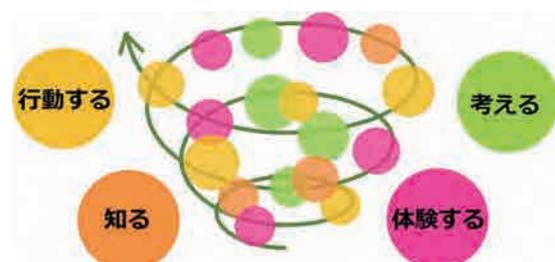
- ビジョンの指導者への共有
- 指導者養成講座の体系化

【目標とする社会】

森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会

【目標とする人物像】

森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人



森林教育のサポート



学校や幼稚園、保育所、学童保育などで取り組まれる森林教育の活動にかかるサポートを行います。

●主なサポート内容

- ・「出前授業」の実施
- ・指導者「森のせんせい」の紹介
- ・森林教育を行うにあたっての相談対応
- ・森林教育の組立やプログラム作成のお手伝い



「出前授業」

これから森林教育を始めたいという学校等を対象に出前授業を実施しています。はじめの一歩にご活用ください。



森づくりのつながり

「森のせんせい」や「森づくり活動団体」のネットワーク構築や、座談会の開催、森林教育、森づくり活動を行う団体との連携を図ります。

物品や資機材の貸出

森林教育に活用できる道具・遊具や、森づくり活動に必要な資機材の貸出を行います。

●貸出物品の一例

- ・ボールプール「もりぼーる」をはじめとする木製遊具
- ・ヘルメット、チャップスなどの安全装備
- ・ノコギリ、丸太切り台などの木工用具



「ミエトイ・キャラバン」

木育を多くの方に体験していただくために、三重の木を使った木製遊具などを展示紹介する「ミエトイ・キャラバン」を行っています。

指導者の育成

各種講座を通じて、森林教育指導者の養成や、「森のせんせい」登録者のスキルアップを図ります。



●講座の内容

- ・地域講座「森林教育指導者養成講座」の開催
- ・「森のせんせいスキルアップ講座」の開催
- ・教職員対象の森林環境教育研修の開催

みえ森づくり サポートセンター



イベントの開催



広く森林教育の取組を伝えるための「場」として、また指導者の実践の場として、各種イベントを開催します。

●イベントの一例

- ・自然観察や木工体験など「森の学校」の開催
- ・県民参加の植樹祭の開催
- ・木の遊具やおもちゃで遊べる「ミエトイ・キャラバン」の開催
- ・「みえの森フォトコンテスト」の開催

表紙の写真 第10回みえの森フォトコンテスト入賞作品
(表) 中学生以上の部 「命の力」 野村 光希さん
(裏) 小学生以下の部 「森のトンネル」 大懸 駿明さん

【編集・お問い合わせ】

みえ森づくりサポートセンター

〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所 交流館内

TEL:059-261-1223 FAX:059-261-4153 mail:miemori@zc.ztv.ne.jp

web <http://www.zcztv.ne.jp/miemorise/> facebook <https://www.facebook.com/miemoridukuri/>

Instagram <https://www.instagram.com/miemoridukuri/>



この事例集は、「みえ森と緑の県民税」を活用して作成しました。
みえ森と緑の県民税については、こちらをご覧ください。

